

## 特別講演 1

### 「腎性貧血治療の変遷と新たな治療戦略

#### ～低酸素誘導因子刺激薬の登場～

滋慶医療科学大学大学院 特任教授

椿原 美治 先生

腎性貧血は、腎臓で産生される造血ホルモンであるエリスロポエチン（EPO）の欠乏による「内分泌疾患」である。

国民の8人に1人は慢性腎臓病（CKD）患者であり、透析患者以外の貧血患者は約100万人と推定されている。保存期CKD患者にもEPO製剤が使用可能となり、ADLやQOLの改善に加え、心・腎保護作用も報告されている。しかし大半が無症状であり、EPO製剤が注射薬であり、また高価薬である事から、十分に普及していないのが実態である。

そこで登場したのが内因性のEPO産生を促す低酸素誘導因子刺激薬（HIF-PHI）であり、既に5剤が上梓されている。EPO製剤より安価で、経口投与可能であることから、投与のハードルが低く、EPO製剤に取って代わる可能性もある。しかし、HIF-PHIには治験時から様々な問題点が指摘されている。本講演では、「かかりつけ医」の先生方がHIF-PHIを使用するに当たり、腎性貧血の診断や病態、さらにはHIF-PHI使用上の注意に関して概説する。